

滋賀県酪農・肉用牛生産近代化計画原案の概要

環境・農水常任委員会資料7-②
令和3年(2021)年7月9日
農政水産部 畜産課



計画策定の趣旨

本県の畜産情勢を踏まえ、酪農および肉用牛生産の健全な発展と生産物の安定供給に向けた取組や施策を示す基本計画

〈性格〉

・「滋賀県農業・水産業基本計画」を上位計画とし「酪農及び肉用牛生産の振興に関する法律」に基づき改定

〈計画期間〉

・令和3年度～令和12年度(5年ごとに見直し)

現状と課題

◇畜産を取り巻く環境

- ①EPA、TPP等により経済活動の国際化が進展
- ②担い手不足
- ③ICT技術の普及
- ④環境・気候問題への対応
- ⑤畜産物需要の増加
- ⑥家畜伝染病や自然災害のリスク
- ⑦コロナ禍による需要の多様化

◇生産基盤の現状

〈酪農経営〉

- ・高齢化、後継者不足による離農増加
- ・飼料価格の高止まり
- ・乳用初妊牛価格の高騰
- ・生産基盤縮小
- 担い手確保、生産基盤強化

	H25年度	H30年度
飼養戸数	68戸	47戸
総飼養頭数	3,536頭	2,705頭
生乳生産量	22,869 t	17,634 t

〈肉用牛経営〉

- ・和牛を中心とした規模拡大
- ・子牛価格の高値推移
- ・肥育素牛の県外依存
- 地域内一貫経営推進

	H25年度	H30年度
農家戸数	114戸	89戸
総飼養頭数	17,710頭	20,262頭
繁殖経営農家戸数	43戸	42戸
繁殖雌牛頭数	1,117頭	1,851頭

次期計画の概要

I 需要に応える生産基盤の強化

(1)生産基盤の強化

- ①畜産経営体の意欲的な増頭・増産への支援
 - 【酪農経営】
牛の能力に応じた交配計画による計画的な後継牛確保と和牛子牛生産による収益向上
 - 【肉用牛経営】
キャトル・ステーションを活用した繁殖雌牛の増頭と和牛子牛の県内生産拡大を推進
- ②中小規模の家族経営を含む収益性の高い経営の育成
高能力な牛群の整備やICT導入を推進、計画的な機械・施設の整備投資
- ③技術指導やICT技術の普及による経営を支える次世代の人材確保
 - (ア)新規就農の確保と担い手の育成
農業大学校等での技術・知識の習得の場の提供、就農希望者と廃業予定農家等とのマッチングの取組を推進
 - (イ)畜産関係技術者の育成
家畜人工授精師や受精卵移植技術者等の育成・確保を図る
 - (ウ)女性の活躍の推進
農業関連女性グループでの研修等の機会を提供
 - (エ)外部支援組織の活用を推進
ヘルパー制度の利便性の向上、民間の専門指導者の利用を推進
 - (オ)ロボット等の省力化機械の導入推進
哺乳ロボットやICTの導入を推進
- ④キャトル・ステーションを活用した酪農・肉用牛の生産基盤強化
キャトル・ステーションの活用による労働・経営負担軽減および地域内一貫体制の強化

(2)需要に応じた生産・供給

- ①多様化する消費者ニーズ等への対応
新型コロナウイルス感染症等により意識が高まっている安全・安心な畜産物の生産の推進
- ②畜産物の安全・安心に対する消費者の信頼確保
 - (ア)飼料・飼料添加物に係る安全確保
「飼料の安全性の確保及び品質の改善に関する法律」に基づく製造業者や販売事業者等への指導
 - (イ)動物用医薬品に係る安全確保
「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」等に基づく、薬事監視員による動物用医薬品の適正使用の指導
 - (ウ)GAP等の推進
畜産GAPや農場HACCPの普及・定着を推進
 - (エ)消費者の理解醸成・食育の推進
ふれあい牧場での体験活動等の取組の推進、食育事業の取組の推進
- ③近江牛の県内外への魅力発信
販売促進イベントや商談会へ参加の促進、商工・観光業と連携した取組を推進
- ④近江牛の輸出拡大の推進
現地プロモーション等により輸出の継続性の強化と新規販路の拡大を推進

II 次世代に継承する持続的な発展

(1)資源循環型畜産の推進

- ①堆肥の広域流通による土づくりの取組を推進
家畜ふん堆肥のペレット化推進、「環境こだわり農業」での利用促進
- ②自給飼料生産や飼料用米活用などによる飼料自給率向上を推進
 - (ア)県産粗飼料の生産・利用の拡大
稲WCSの生産拡大、稲わらの県内自給率の向上
 - (イ)飼料用米等県産飼料穀物の生産・利用の拡大
麦・大豆栽培の不適地等における飼料用米の作付を推進
 - (ウ)エコフィードの生産・利用の促進
民間事業者等と連携し、利用可能な食品残さ等の活用を図る
 - (エ)飼料の流通基盤の強化
保管施設の整備や飼料用米を活用した指定配合飼料の調製を推進
- ③CO2ネットゼロの取組の推進
耕種農家の家畜ふん堆肥の利用による温室効果ガス排出削減や肥育素牛の自給率向上による輸送燃料削減等を推進

(2)リスクに強い畜産経営の確立

- ①家畜伝染病への対策と危機管理体制の充実・強化
防疫演習等の開催、飼養衛生管理基準の遵守のための指導
- ②災害に強い畜産経営の確立
新型コロナウイルス感染症等、不測の事態に備え、各種経営安定対策や家畜共済、収入保険等への加入を推進
- ③家畜の快適性を考慮した飼養環境の推進
アニマルウェルフェアの考え方に則した飼養の推進

(3)地域の連携

- ①畜産クラスター協議会を中心とした地域の連携推進
地域での耕畜連携や外部支援組織との分業化等の取組を推進
- ②コントラクター等の外部支援組織の利用拡大による耕畜連携の推進
飼料作物の生産、稲わらの収穫や堆肥散布に係る作業の受託化を推進
- ③6次産業化を通じた畜産を中心とした生産物の高付加価値化
多様な事業者との連携による商品開発や高付加価値化への取組を推進

飼養頭数等の目標

	酪農			肉用牛			
	飼養頭数	飼養戸数	生乳生産量	飼養頭数	飼養戸数	うち近江牛頭数	うち繁殖雌牛頭数
現在(H30年度)	2,705頭	47戸	17,634 t	20,262頭	89戸	14,016頭	1,851頭
目標(R12年度)	3,000頭	47戸	19,950 t	24,160頭	89戸	16,500頭	3,000頭